

# 「幅広い研究活動を」

We are advancing into wide R&D

常務取締役  
第二事業部長  
田中丸善厚  
Zenkou  
Tanakamaru



日本の塗料産業が、本格的な世界的大競争時代の波に洗われ始めている中で、第137号の「塗料の研究」を発行できますことは、愛読者の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

本格的な大競争時代において、産業全体が「整理と削減」を進めています。この中で勝ち抜くためには、もはや品質だけで競争するのは不十分で、品質はもちろんのこと、価格及び塗膜形成までの総合的ビジネス機能を直結させた研究開発が最も重要になるものと考えます。

工業分野では早い時期から塗装の自動化が進められ、塗膜性能のレベルも高められてきました。一方、未だ人手に頼り3K[きつい、汚い、危険]がつきまとう建築・造船分野においては、塗装の近代化が遅れています。従って、塗装の合理化は顧客にとって大幅なコストダウンにつながりますが、それを可能にするには付加価値の高い塗料の開発及び塗装システムの革新が必要です。

従来の研究開発では、ややもすると塗料の開発のみに情熱を傾けられ勝ちですが、塗膜周辺技術の開発も重要テーマと考えられます。

また、当社は創業以来八十余年塗料を生産、販売する会社であり、今もなお、塗料の売上げが約90%という事は、こ

の業界が大変恵まれた業界であったと思えます。創業者が作った範疇で八十年余り、塗料主体で大きくなってきたわけであり、無理して他の事業を展開しなくても良かった良い環境でありました。しかし、今後このままで良いとはとても思われません。

造船会社がお茶を!、電気会社が医薬品を! 作る時代であり、当社と同時期創業のT曹達工業(株)は、曹達の売上げは2%以下となり、社名も変更したと聞きます。A調味料会社でも本来の「調味料」の売上げは10%以下となり、主力製品はスープや他の調味料、医薬品に変化してきています。

当社を顧みますと、環境関連製品として下水処理用の菌固定化担体「KPパール」、新車の保護フィルム「ラップガード」や貼る塗料「ファンタック フィルム」等の製品も健闘していますが、未だ売上げ全体の10%以下であります。

従来のきめ細かな塗料の研究、塗膜形成過程の研究はもちろんのこと、より枠を広げた総合科学メーカーとしての、**市場ニーズに合った研究開発とマーケティングの必要性は不滅永遠であります。**

近い将来、それらの成果を本誌上でご紹介できることにご期待戴きまして、一層のご支援をお願い申し上げます。